第12回　第２期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会	
日　　時	平成22年11月11日（水）　９時30分～11時42分
開催場所	松村ビル別館　２階　201会議室
出席者 **（敬称略）**	有賀美代、石塚淳、大木幸子、岡田朋子、黒津貴聖、富井亨、中川泰雄、長倉真寿美、中野しずよ、中村好美、名和田是彦、平賀裕、森本佳樹、山田美智子、山野上啓子
欠席者 **（敬称略）**	大村直行、坂田信子、玉城嘉和
開催形態	公開（傍聴者なし）
議　　題	議事　（１）区計画及び市計画の策定・推進状況について （２）推進の柱３「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための分科会について 報告　（１）推進の柱２「必要な人に的確に届く仕組みをつくる」 地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会について （２）横浜市地域福祉保健計画（市社会福祉協議会）について その他　・　横浜市・区　地域福祉保健計画ニュースについて ・　地域活動が更に輝く「３つの工夫」講座について
決定事項	議事（２）に関して、資料２－④「分科会　ヒント集のまとめ方（案）」について、委員からいただいたご意見を踏まえて、次回分科会で検討していくということになりました。
議　　事	開 会　深川福祉保健課長 議 事 （１）区計画及び市計画の策定・推進状況について **（森本委員長）**最初の議事（１）区計画及び市計画の策定・推進状況について、事務局からご説明いただきたいと思います。 ・事務局が、区計画及び市計画の策定・推進状況について説明。【資料１－①～②参照】 **（森本委員長）**ご説明いただいた内容について何かご意見やご質問などがございましたら、どなたでも結構ですのでご自由にお出しいただければと思います。 **（名和田副委員長）**それぞれ皆さん、区計画や地区別計画でかかわっておられると思うので、どんな感じかちょっとご紹介いただけるといいかなと思います。 **（中野委員）**名和田先生の座長のもとで議論を進めてまいりまして、よかったなと思うことは、立場の違う人たちが一同に会し、フラットな立場でそれぞれの活動をもとに意見を交わしながらすり合わせができたり、なるほどそうだったのかという合意が得られていることです。 しかし、計画だけが立派にできても、果たしてこの計画を住民が納得の上で推進できるのかというところ、つまり、だれが主体なのかというところに一抹の不安があります。私は委員として、絵にかいたもちをつくっていったのでは意味がないと思っています。市民・区民が本当に納得した上でこの計画に関与して推進していくのだという覚悟を持たなくては何も意味がないということを、いつも考えながら発言をさせていただいたり、まとまる推移を見つめてまいりました。

今、区民にご意見をいただくということで、中間の案を出しているところです。膨大で読みにくいかとは思いますが、一つ一つ細かく吟味した結果でございますので、関与させていただいたことを光栄に思っています。

（森本委員長）事務局にお尋ねしたいのは、第１期で地区計画をつくっていた所と、つくっていなかった所があると思うのですが、第２期では全区でやろうということで、新しく第２期で地区計画をつくる所で戸惑いとか必要性の確認とか、何か意見が出ているということはないですか。割と皆さん納得して、やはり地区計画が必要だということですか。

（事務局）地区計画をつくるということは、市の第２期計画を策定する段階から既に示してきていますし、各区で大分地域の中に入りながら策定してきたということで、納得してつくってはいただいていると思います。第１期計画でつくってきている地域に関しては、地区懇談会などに大分慣れてきているところです。新しくつくる所は、どういう人たちを集めて、何を主体に話したらいいかということで、戸惑いのあった所もあると聞いていますが、各区それぞれの方法で今、進めていただいております。

（黒津委員）横浜市の場合は地域によって差があるのではないかと思います。商業地域、住宅地域、工業地域、各々の関連性は、区によって内容が少し変わってくるのではないかということが一つです。そのためには、関連する地域の横の連携をとる必要があるのではないかと思います。各区だけで計画を立てるということもさることながら、関連性のある区がどういった特徴があるのかということも考えなくてはならないということです。

２つ目は、どこの区でもそうですが、行政の方は約３年で異動しますので、そのために十分な引き継ぎが行われないことがあります。このことについては、できるだけ引き継ぎがきちんと行われて、計画そのものが新しいメンバーにかわってもできるようにしていただくということが重要ではないかと思います。

もう一つは、社協と区あるいは市との横の関連性をできるだけつけていただきたいということです。たしか、社協のほうは活動計画というものを別途つくっているのではないかと思うので、できるだけ行政との関連性をつけていただく、その３つです。

（事務局）職員の異動に関するお話をいただきましたが、できるだけ各区の中で引き継ぎを行い、計画の推進に向けた研修の体系など、市からも示しながら区で取り組めるような土壌づくりを今やっているところです。

区と区社協の関係性に関しては、今回一体的に策定していくという中で、区のほうの活動計画も当然ありますので、そことの連動を図りながら、それぞれの計画の一体性はとっていきたいと考えています。

最初にいただきました、各区それぞれの計画の連携ということに関しても参考にさせていただいて、今後考えていければと思っております。

（森本委員長）１つ目のお話は、地域特性が似ている区で、どのようなテーマで計画が立てられているかというようなことが全部出そろったときに、地域特性とメインテーマとの関係といった類型化ができるようなら、ある地域ではこういうところで困っていて、別の地域ではこういうことをやっているというようなことが出てくると、お互い参考になるのかなと思います。物理的に結びつけて何かをやるというのはなかなか難

しいでしょうけれども、同じような特性の別の区ではこういうこともやっているといった情報が流れるような仕組みができるといいと思います。区の中では大体共有できているのでしょうけれども、区をまたがるとなかなか共有しにくいところもあると思いますので、そのようなものが市の役目としてあってもいいかなという気はします。

３つ目の区と区社協の関係は、第１期は別々に立てていた所も結構あったり、第２期もまだあるのだろうと思いますけれども、よその自治体を見ていても、最初は別々に立てていたのが一緒に共同事務局になったり、計画自体は表裏で２つ報告書を出していても中身は、実態としては一緒にやっているというのが、あちこちでふえてきています。実際に動き始めてみると、ばらばらにやっていたら市民も不便ですし、それぞれの主体も不便だということがわかってきているようで、だんだんと統合されていくような感じになるのだろうと思います。まだ１期、２期で十分にすり合わせられないところもあるかもしれませんが、いずれ一緒にやっていかざるを得ない、一緒にやってくれないと市民が困ってしまうということだと思います。

２つ目のことは、私もずっと言い続けています。市の担当自体もコロコロ変わってしまうのですが、それは要望と言いますか、期待をしています。

（２）推進の柱３「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための分科会について

（森本委員長）先ほど全体像をご説明いただきましたけれども、その中で推進の柱３「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ということで分科会が開かれています。そのことについて事務局からご説明をしていただき、分科会に参加されている委員の方も補足をしていただければと思います。

・事務局が、推進の柱３「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための分科会について説明。【資料２－①～⑤参照】

（森本委員長）少し質疑をしたいと思いますが、２つに分けて、最初は今、ご説明いただいたことに関しての質問や意見をまずいただいて、その後、９ページにあります今回ご意見をいただきたいことに移りたいと思います。最初に今、ご説明いただいた内容についてご発言いただければと思いますが、いかがですか。

（黒津委員）資料２－④の表を見てください。説明によるとこの活動というのは、循環している、サイクルで回るということを前提条件にしているそうですが、左下の図は循環するのですか。成果物イメージも同様の書き方ですが、循環するのであれば、誕生期、成長期、最盛期、成熟期の後はまた誕生期に来るわけです。成熟期の後が誕生期になるわけではないでしょうけれども、何かそのような表示になってしまうと紛らわしいのではないかという感じがします。循環するということは、少なくとも①でこういうふうになりますよと表示しているわけですから、できれば横にするなど、表示の仕方についてちょっと考えていただいたらどうかと思います。

（森本委員長）今のご発言は、後段でどういう形でまとめていくかというときの話になるので、後でまた事務局のお考えとか、ほかの分科会の方のお考えなどを伺いたいと思いますが、事務局が説明された中身について言うと、これは循環と考えていいということなのですか。

（事務局）事務局の案としては、循環するということをイメージしてつくっています。

	（森本委員長）というと、成熟期の後は誕生期という話になるのですか。 **（事務局）**確かに、成熟期から誕生期になるとは言えないです。 　循環というより、これは循環しているように見えますけれども、あくまでもレイアウト上に入れたので、今、黒津委員からいただきましたご意見は事務局で受けとめさせていただいて、誤解のないようにいたします。成熟からまた誕生に行くというのはちょっと変かもしれませんので、そのあたりはわかりやすく表示するように検討させていただきます。 **（森本委員長）**フェーズが変わるといいますか、ステージが上がるという感じなのだと思います。 **（名和田副委員長）**この「ヒント集のまとめ方（案）」のレイアウトイメージは、きょう初めて出たのですか。前回の分科会ではまだ出ていないですよね。そうすると、これはヒアリングをこの間されて、そこから得た印象だろうと思うのですけれども、今、簡単にご紹介いただいたヒアリング案から、どうしてこういうイメージができたのか、その思考プロセスがよくわからないところがあるのです。そこは事務局で議論をされてこういう仮説に達したと考えていいのですか。 **（事務局）**最初はヒアリング項目ごとにまとめていこうと思っていたのですが、それもイメージしつつ、成熟しているときとか、誕生しているときとか、その時々にとても有益なヒントがあるのではないかということが、ヒアリングをしている中で事務局で見えてきたということです。それで、ヒアリング項目とともにステージごとにまとめていくという手法をとり、それを併記することで、両面から見える形でやっていくほうがいいのではないかということで、今回ご提案させていただいている次第です。 **（森本委員長）**ということは、８月の段階ではこれは出ていなくて、事務局のほうでヒアリングをしていく中で、サイクルか段階かわかりませんが、それぞれのときのヒントがいろいろあるだろうということですね。 　私から質問ですが、15ページの資料２－④にリーフレットと冊子とあるのですが、リーフレットは完全にこの１枚ものでつくるというイメージでいいのですか。そうすると、載せられる情報量はそんなにたくさんではないですよね。この「【キーワード】仲間づくり、共有する場面……」というのは、もしこれだけ載っていたら何もわからないかなというイメージがあります。もちろん、もっと大きくなるので、いろいろ載るとは思いますけれども、とにかく表裏１枚のＡ３でつくって、次に冊子をつくるということですね。 　それからもう一つですが、９ページの資料２－①にあるヒアリングの進め方で、事務局留意点についてご意見をいただいたとあるのですが、きょうの資料にどういうものを留意点にしたか、あるいはその意見をいただいてどういう形に留意してヒアリングをしたかというのは、ペーパーとしては出ていないと見ていいのですか。それとも、資料２－⑤の①と②で質問項目が分けられていますが、それは留意点に意見をいただいた後の結果として出てきたという理解でいいのですか。 **（事務局）**事務局留意点については、今回のペーパーには掲載していません。それは申しわけございません。ただ、実際聞いた内容につきましては、事務局留意点を参考にしながら、その結果を反映させていると思っております。後ほど、事務局留意点も含め

て、こういうヒアリングシートにさせていただいたということで、情報提供させていただくということでもよろしいでしょうか。

（森本委員長）資料２－①「分科会の目的」の「現状の課題」の中で、「活動者の負担感が強く、後継者や担い手の不足が懸念されている」とか、あるいは「対応策」の中で、「新たな人材発掘、育成等の手法を検討する」という意味でのダイレクトな質問というのは、資料２－⑤の①②には余りないような感じがしたのです。例えば、後継者の育成をどういうふうにしていますかというような項目が、質問として１つ大きな柱で出ているといった感じではないように思うのですが、その辺はいかがですか。

（事務局）資料２－④の成果物イメージの（１）リーフレットの表紙にあるタイトル案で「活動の継続・発展に向けたヒント集」、サブタイトルで「担い手を発掘・育成する視点から」という形で実は書いています。人材育成・発掘という視点で考えていくときに、付随してその活動が発展・継続していることをいろいろ調べてそこを押さえていく中で、いかに人をうまく巻き込んでいるかというところが見えてきたということを、前回分科会の中でヒアリング項目の案を提出させていただくときにもご説明させていただいた経緯がございます。

人材育成・発掘ということだけ聞こうとしても、そこに至るまでのプロセスで、どうしても活動という部分が入ってきます。そういう中で、ヒアリング項目もまとめさせていただいているという状況がございます。目的としては、人材育成・発掘というところに行くのですが、そのためのいろいろな材料やヒントということで、今回まとめさせていただいているというようなところもございます。

（大木委員）私もそこのところがやや混乱するかなと思いました。ヒアリング項目の資料２－⑤で上がっている、人材の担い手をどう支えていったりふやしていくかということと、活動自体をどう発展させていくかということが、どうも意見もまとめも一緒に入っているような印象があります。活動をどう発展させていくかというのは、いろいろなものがもう出ていると思うのです。むしろその中で、すごくいい活動をされているのだけれども、コアメンバーが立ち上げのときからずっと頑張って担い続けていて、そこがなかなか次に広がっていかなかったり、次の人にバトンタッチができなかったりということが、そもそもこの分科会の焦点だろうと思うのです。活動されている方たちはきっと、そこで何か手がかりがあるといいなということが切実にあるのではないかと思うと、そこでどんな工夫がされているかということに、もう少し焦点が絞られたほうがいいと思います。

おっしゃることはまことにそうで、活動の中身がスカスカなのに、いい担い手が育つわけではないですが、活動あっての話とは意図的に分けて、その担い手の人たちがどのようにしてバトンを渡せていけたり、広がっていけたり、役割を分けていけるか、その話し合いがどんなふうに持てると有効なのかというようなことが、意見として出てきていると思うのです。ヒアリングはもう終わっているようなので、ヒアリングの中から出てきた意見をまとめるしかありませんが、その辺を少しご検討いただけたらと思います。

（平賀委員）前回の委員会で各場所にヒアリングをしてほしいということで分科会ができて、そのときにヒアリングの資料というのをいただいているので、委員の方は皆さん

お持ちだと思います。それに基づいて、各分科会の委員が自分たちのヒアリングの場所を決めて行っているわけです。

私は本牧のあるケアプラザに行ってきました。そこの主幹の方にいろいろお話を伺ったのですけれども、認知症にならないための脳の活動というのを、もう５年から７年でしたか、やっておられて、そこでこれからの担い手を探すヒントになるのではないかと思ったことが１つありました。１つの事業が２年で終了しますので、２年過ぎた利用者は卒業していかなくてはいけないのですが、卒業したくないと言うのです。要するに、担い手と利用者とのコミュニケーションができているのです。ではどうするかということで、自分たちでグループを立ち上げて活動しているのです。その話を聞いたときに私が思ったのは、担い手と利用者というふうに分けないで、利用者が卒業したら今度は担い手に持っていけるような方法がとれないだろうかと。この活動はボランティアが担い手になってやっているので、利用者を次のボランティアをやっていただく担い手に回せばいいのではないか。利用者が担い手のほうにうまく回り込めるようなシステムを少し考えていけたらと思いました。ヒントになればと思います。

（森本委員長）後段の、ご意見をいただきたいことのほうに入ってきているような気もします。前段のところで質問などがなければ、後段のほうでどういうまとめ方をしたらいいかとか、どういうヒントを入れたらいいかということを、もう少し自由にご発言いただけたらと思います。

（名和田副委員長）分科会長としてお願いですけれども、なるべく自分のかかわられている団体を念頭に置かれて、いろいろ意見を言っていただきたいと思います。それだけ材料がふえますので、私は簡単に自分の考えを述べたいと思います。

まずこれを最初に見たときに、事例集みたいになっているなと誤解をしていました。ヒント集なのになぜ事例集になったのかなと思ったのですが、これはあくまでもヒント集で、事例集ではないのですね。だから、ある事例を取り上げて、その事例が誕生、成長、最盛、成熟というふうに行くさまを追いかけるわけではないということは、先ほど質問してわかりました。

そう考えますと、このヒント集の基本コンセプトは、停滞克服ヒント集ではないかという気がしたのです。停滞といってもいろいろな停滞があるので、停滞の類型分けをしないと人の役に立たない。では、どういうふうに類型分けをするかというと、それぞれの期にそれぞれ特有の停滞要因があるのではないかと、ヒアリングを通じて考えられたということです。このコンセプトを前面に出すと、比較的わかりやすいレイアウトになると思います。開いて見たときにどのように人の目が動くかということは少し考える必要がありますけれども、いずれにしても特定の団体ではなく、一般的に活動団体がそれぞれの期にそれぞれの停滞要因を抱え克服していくコンセプトがあると、そういうふうに見ていいのかなと感じました。

その場合、誕生期ということについて言うと、その団体の前史があると思うのです。前史がむしろ重要ではないかという気がするので、そこには分析において留意をしていただきたいと思いました。それから、失敗談はなかなかいいと思うのです。これはしかしレイアウト上、どこにも入らない感じがしますので、工夫をぜひお願いします。それぞれの事例の失敗談を右下あたりにコラムで少し入れると、本当はそれが一番役

	に立つのではないかという気もいたします。 **（山野上委員）**まずちょっと疑問だったのは、このヒント集の成果物イメージの対象者がだれなのかということです。これは活動団体の運営幹部向けというふうにとれますけれども、それでいいのかということと、先ほど出た循環するという話で少し思ったことをお伝えしておきます。 　自分の活動を思い浮かべて考えると、移動の関係をやっていたのですが、道路運送法が変わったときに大きな転換期が来て、今は車から離れて横浜市のガイドボランティア事業といった行政の仕事を手伝い始めました。そういう転換期に向かって、この停滞というところから転換していくということと、分化していくというのがあって、そこでまた循環していくというのは、そこにつながっていくのかなと思いましたので、別れ道がもう少し先にあってもいいのかなと思いました。 　あと、②の図ですけれども、上のほうに「既存の事例集、資料等からのヒント」というのがあったので、そういうところから出てきた図なのかなと思いました。活動の運営のことについて、先ほど大木委員がおっしゃったようなところが入っているようなので、もしこれを人材を集めたいというヒント集にまとめるのであれば、そこはもう既にデータはあるのでそちらを見るという形にして、ここは人集めに力を入れて、そこだけに特化したほうがいいのかなと思いました。 **（森本委員長）**最初の話は、対象者はあくまでもここに書いてある、地域福祉保健活動者ということでいいわけですよね。 **（事務局）**団体もあれば個人もあると思いますが、主に団体を想定しています。 **（森本委員長）**そこから、リーフレットなどだったら市民のほうにも広がっていけばいいとか、そういうことですよね。 　２つ目の話は、転換期というのは、ある種停滞を打破するように作用するときと、逆に停滞をもたらすときとがあるのかなと。そういう意味では、移動からガイドボランティアに転換した事情というのは、外部環境の変化なのか、内部環境の変化なのか。つまり、言い方は変ですが、停滞し始めたから、目先を変えた別の活動に広げて奮い立つ、刺激にするというようなことが内部から出てきて新しい仕事をつくったという場合と、行政からほかにやる団体がないので引き受けて欲しいという話が来て、それがいいふうに出て停滞を乗り越えたという場合と、両方あるのだろうと思います。そういう団体の歴史というか経緯の中で、それを取り巻く内部環境の部分と外部環境の部分で、どういう停滞をどういうふうに打破したか、場合によってはそのままつぶれてしまうような所もないわけではないと思いますが、いいか悪いかは別にして、そういう団体の方はここには来ていないので、それなりにやってこられた方の今のような話は重要だと思います。 **（黒津委員）**順序の問題です。資料２－⑤を見ていただきたいのですが、このリーフレットをつくるに当たって、これは恐らくこの委員会としてというよりも、行政が皆さんに訴えるべきものではないかと思うのです。そこで、まず初めが①、次に③、④、⑧、⑤、②、⑥という順序ではないかと思います。つまり、どういう活動をしているのか、どう参加したらいいのかということを中心にして、費用の問題その他は後につけ加えたらどうかと思うのです。内容についてはできるだけ見やすいようにしていただきた

いということと、かたい言葉はやわらかくしていただけたらと思います。例えば「活動」というのは難しい言葉なので、もう少しやわらかい言葉にできないかどうか、そのあたりも考えたらいかがかと思います。

（森本委員長）今お配りいただいたのは、先ほど私がお願いをした事務局留意点というのが加わったヒアリングシートということです。

黒津委員のご意見はそのとおりだと思いますが、この「ヒアリング項目ごとの共通点」はそのまま冊子に出るわけではないですよね。これが冊子になっていくのですか。

（事務局）これを骨子にしながら冊子のほうにまとめていこうかなとは思っていますが、今、黒津委員がおっしゃった順番でありますとか、項目ももう少し分解したほうがいいのではないかとか、まとめたほうがいいのではないかということも含めて……

（森本委員長）先ほど出てきている育成ということに絞って何か項目を立てるということも含めて流動的だということですか。

（事務局）そうです。まだ第１回の小委員会が開かれたばかりで、その段階での資料ということですので、今いろいろ推進委員の皆さんからいただいている意見を踏まえて、小委員会の中でもう少し項目とか順番とか、どういう表記にするかも含めて、次が12月２日にございますので、その中でもんでいきたいと思っております。

（山田委員）私もヒアリングに幾つか参加させていただきまして、このヒント集の時間軸は確かに有効かなと思ったのですが、時間軸を取っ払って、人に焦点を当てて考えたほうが活動者の方にとっては伝わりやすいのかなと思いました。私たちの活動の中でも、お母さんたちが集いの広場を始めたことから、その動きが国の制度につながり、地域子育て支援拠点につながったという、社会を変える大きなきっかけになったこともあります。介護保険のときもそうでしたが、制度が変わったり社会が変わったことで、私たちの活動のステージが上がって、人材のことなど新たな課題が出てきています。成長期だけではなくそれぞれの段階で、社会が変わる中で一緒に担ってくれる人をどう誘ってどう巻き込んで育成していくかというのは、どの活動においても同じだと思うので、人をポイントにした冊子ができたらいいかなと思いました。

これは、新たに活動を始めようという人がターゲットではなく、既に活動していて、人に対しての課題を持っている人が読んだときにストンと落ちるような、読み手の側にとってわかりやすいような表現とか失敗談とか、事例も少し入れていただけるとヒントになるかと思います。ヒアリングの中で、利用者が担い手に変わるという団体が幾つかありましたし、そういうエッセンスは共通してあると思います。

（森本委員長）私はここで中座させていただきますので、後をお願いいたします。

（名和田副委員長）先生、ご苦労さまでした。では、職務代理に交代いたします。

（中野委員）私もこの成果物イメージのところで、誕生、成長、最盛、成熟と読んでいったとき、果たして自分はどこにいるのだろうと思ったら、私は誕生期から成長期ではないかと自分では思っておりますが、はたからどう思われているのか。これだけやってきてしまったら、もう最盛期も過ぎ、成熟期に入りかかっているのかもしれませんが、自分ではいつも挑戦中で、最盛だとも成熟だとも思えていないのです。その都度、名和田先生がおっしゃっていた停滞期というかピンチはあったわけで、私は何とか期に分けるというよりも、「人」「お金」「拠点」とか、活動するときのキーワードで、

	インターネットの検索に近いような、情報が欲しいときにすぐアクセスできるような見方ができるといいかなと思います。 　人にしても、新たな仲間・同志を集めたい場合とか、一番大事なのは世代交代をどう乗り越えたかとか、その辺のヒントは知りたいところです。私も立ち上げたときから、いつか世代交代するぞと心の中で思いながら、引っ張りながらも交代要員をずっと探し続けています。キーワードは、「新たな仲間集め」とか「世代交代」とか「大きく展開するときの人集め」とか、「仲間」だけではなく「賛同者」とか「サポーター」とか、助けてくれる人にも濃さ・薄さはありますが、どういうふうに人に支持していただける展開をしていったらいいのか、そのヒントが私も知りたいです。 **（名和田副委員長）**少し議論を整理すべきところがあると思います。先ほど山田委員が人とおっしゃったのですが、実は私も最初にこれは事例集として受けとっていたので、そういうふうに考えていたのです。そういう観点で言うと、誕生、成長、最盛、成熟というのはピンと来ないのです。まさしく中野委員がおっしゃったように、私自身も活動者として最盛とか成熟とかどこにあるのと思ってしまうのです。だから事務局は、その活動を見て客観的にまとめて、やはり事例集ではなくてヒント集として、外から見るとどんな団体にもこういう時期があるから、それぞれの時期に適切なヒントをつくりたいと、こうなったと思うのです。それを引き戻して、人あるいは活動団体に基軸を当てて整理しようとすると、サイクルはかなり変わってくるので、そこはまだ引き続き今の点をご議論をいただいていいと思うのですけれども、事務局のほうでかなり大きな方針転換になる可能性があるということを念頭に置いて整理していただいて、次回の第２回分科会にかけていただきたいと思います。 **（中村委員）**私はＮＰＯ（テーマ型）とは少し違って、地域（エリア型）のまちづくり、ふるさとづくりという視点から地域ニーズのところで参加させていただいています。大きな連合自治会から分かれて連合自治会を発足させているのですけれども、地域では、顔の見える関係性がないといい福祉活動ができません。しかし個人情報などの問題がありまして、関係がつくりにくくなっています。今、社会的にもそうだと思いますが、ＰＴＡなども新しい役員の名前も教えてもらえず若い人と接触するのがかなり難しくなっています。 　大きな連合から分かれましたけれども、高齢者支援など同じような事業をやっていかなくてはいけないということで、活動量は大変になりましたが、お手伝いをしてくれるたくさんの人に理解を得られています。ただ、大木委員がおっしゃったように、コアメンバーというかリーダーというか、その辺をいかにつないでいくかというところが課題です。お手伝いならしますという方はたくさんいますし、いろいろな技術を持っている方も、技術の提供はしていただけるのですが、ではそのまとめ役をどなたがするかというとそこの部分が難しいです。中にはまとめ役が高齢化していくことで活動がしぼんでいってしまうこともあります。担い手と一くくりに言ってしまうのは簡単ですが、協力者はたくさんいてもその協力者をうまくまとめていく人たちをどのようにしてつくっていったらいいのかというところが今、地域の課題になっています。ぜひ、教えていただきたいと思っています。 **（名和田副委員長）**分科会に対する期待は非常に大きいので頑張りたいと思います。

	本当は次に移らなければいけない時間ですが、人を基軸に分類するとかなり違ってくると思うので、事務局からその点でもう少し委員のご意見を伺いたいということがあったら言ってください。 **（事務局）**大きい方針転換は、ここでぜひたたいていただきたいということで出していますので、本当にいろいろいい意見をいただいたと思っています。確かに活動という視点でいくのか、人という視点でいくのかというところでは、人という視点のほうが今、活動をされている方たちにとって参考になるだろうというご意見だったかと思います。まとめ方も含めて、また次の小委員会に臨みたいと思っています。 ほかにもし何かご意見等、この場でわからないことであればメーリングリストもございますので、その中で気がついた点や、こういうふうにしたほうがいいのではないかというアイデア、こういうところがもっと欲しいというのがあれば、ぜひいただければと思います。 **（名和田副委員長）**今、一連の議論がありましたが、それとは文脈が外れるからと我慢していらっしゃった方は発言してくださって結構です。 **（富井委員）**ヒアリング項目の共通点に出ている内容が、社協の役割の中に多く含まれておりますので、そんなことから少し発言させていただきます。 ヒント集といったものについては、これまでもたくさんあったと思うのです。でも、それがなぜ活用されないのかというと臨場感がなかったり、事例集もそうですけれども、ハードルが高過ぎるために参考にならないということがあったと思うのです。その辺を少し反省する必要があるのかなと思っております。 それから、担い手の不足はどの場面でも出てくる話ですけれども、担い手の広がりがないというような課題を地域の中で持っている方は多くいます。決して担い手がいないわけではなく、担い手を掘り起こす、あるいはきっかけをつくるというところがなかなかできていなくて、例えば、リーダーになっている人たちの世代交代がうまくいかず、やろうと思う人がいたとしても、そのきっかけになっていかなかったりすることがあるように思います。 事務局が３年で異動してしまうという話が冒頭にありましたが、社協もそうです。３年でいいかどうかはわかりませんけれども、地域のリーダーあるいは担い手の世代交代も同様ですが、次の人に引き継いでいくということも、重要なのかなと思います。それは目標が定まっている計画があるからこそ、交代があっても、その目標に沿っていくことができるからです。 **（長倉委員）**費用も限られていると思いますので、このリーフレットも１種類になるのかなと。先ほどから人に絞るのか、活動に絞るのかというお話がありますが、どちらも大事で、中野委員から実際活動されている立場で、誕生期、成長期、最盛期、成熟期と自分たちで自覚しているわけではないというお話があって、やっぱりそうなのかと思いました。私は実際活動している立場ではないので、本当にそういうふうに皆さん思っているのかなと思っていたのですが、すごくストンと落ちました。 こういうリーフレットなどをつくるときに、例えば、人編、物編、お金編、情報編ではないですけれども、限られた情報の中で興味のある人はもっと詳しいものにどうぞという形の導入であるとしたら、幾つかパターンがあってもいいのかなと。ただ、

それは費用もかかる話なので、実際できるかどうか。例えば、表紙には、人をどう集めて育成していくかというポイントが書いてあって、見開きには、いろいろな転換期とか危機とかあるようですので、そのターニングポイントごとにこういうことをやりましたというようなことが書いてあって、裏表紙には、もう少しわかりやすい具体例みたいなものが入るとか。いろいろなものがキーワード的にポンポンと置かれているだけではわかりづらいのかなと思いました。ご検討いただけたらと思います。

（名和田副委員長）予算のことを考えて、例えば、見開きの間にＡ４を１枚入れるとか、それはもうだめなのでしょうか。

（事務局）この１冊で何とかしようと思うと非常に予算は厳しいと思います。すごく参考になる意見だと思いますし、リーフレットともう一つ冊子もございますので、その辺の役割分担もしながら考えていければいいかなと思っています。リーフレットを２種類、３種類、４種類はなかなか厳しいかもしれないので、その辺も含めてまた小委員会のほうで検討させていただきます。

（山野上委員）今の活動者向けのリーフレットをつくるということですが、私なども人集めで困っているのは、やっていない人たちにこういう活動があるということを知らせるのが難しいことです。福祉保健大会などでお会いする方は大体いつも一緒で、同じ悩みを抱えていらっしゃる方ですので、かかわったことのない人たちに、かかわるとこんなバラ色の世界がありますよということを伝えられるような、全然違う世界の人たちに届けることを考えていただけたらうれしいなと思います。

（黒津委員）今回このリーフレットをつくるに当たって、これをどう活用するかが一番問題なのです。逆に言うと、どういうふうにこれを活用しながらこの計画を推進していくかを考えることが、一番重要ではないかと思うのです。それができないと、ただ単に印刷物をつくるだけに終わってしまう可能性もあるのです。これは、市役所だけではなく行政各区が、あるいは末端の各所でどういうふうにこれを活用するか、必要に応じて市役所が一緒になってそういうことをやるということまで考えていくことが必要なのではないか、それをやれば、このリーフレットが十分に生かされていくのではないかという感じがします。いろいろなことが盛り込まれていますけれども、これを生かすかどうかは、やはりその点にポイントがあるのではないかと思うのです。

（名和田副委員長）最近自分がやっている活動との関連で言いますと、こういうものが生かされるような関係づくりというのは、よく「顔の見える関係づくり」と気軽に言っていますけれども、顔の見える関係づくりというのは、顔の見えない人との接点を持つということなのです。これは非常に難しいことで、顔の見えていない人と接点を持つような活動というのが、一つの活動分野として自覚化される必要があるかなと思っています。私がやっている港南台タウンカフェは、まさにそれなのです。顔が見えない人にこういうリーフレットを渡す関係がいきなりできるわけではないかもしれませんが、ともかく出会うということを自覚化しないと、何かどんどんすぼまってしまうという感じがすごくします。

報 告

（１）推進の柱２「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」
　地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会について

	（名和田副委員長）議事が終わりましたので、３の報告に移らせていただきたいと思います。報告の（１）について、資料３に基づいて事務局からご説明をお願いします。 ・事務局が、推進の柱２「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会について説明。【資料３参照】 **（名和田副委員長）**これは行政内部的な検討会ということのようで、それで報告という形なのですけれども、ここで少し質疑なり議論なりをしていただいて、検討会の議論を豊富にしていくことも大事だと思いますので、何かご質問、ご意見等ありましたらよろしくお願いします。あるいは、これにご参画されている学識の先生から補足的なご発言などありましたら、それもお願いしたいと思います。 **（岡田委員）**検討会に参加させていただいておりますが、実際まだ中身に入っていないという段階でございます。それで課題提起と、現在ケアプラザのコーディネーターの方を中心に、地域で活動されている様子を今、共有したというレベルでございます。目指すところは、既にネットワークが組めていて、いろいろな課題がきちんとした形で支援につながる方以外の地域にある、さまざまな困難を抱えていらっしゃる方々にどのような手だてが今後とれるのかということを、ケアプラザの立場から整理し、読み解きましょうというレベルでございます。 **（黒津委員）**昨年、私が住んでいる近くの港南区の日野南にケアプラザができて１年たちました。職員の方々は立派でございまして、私どもの町内会は毎月１回町内会館の開放日を決めて、どなたでも来られるようにしているのですが、そのときに必ずケアプラザの方が来てくれます。それで、いろいろな相談事の窓口だとか、時には健康診断をやっていただいたり、こちらのほうから逆にケアプラザに行って向こうの会議室を使ったり、いろいろな食品の販売その他をご一緒してやっております。 　ケアプラザというのは、全域にあるわけではないと思うのですけれども、できるだけこのネットワークづくりをうまく活用するということ。それから特に重要なのは、今お話ししたように、ケアプラザの方々はとにかく地域に出て行かないと、職場の中にいるだけではだめなのです。できるだけ地域に出て、地域の事情をよく聞くこと。それから必要に応じて、社協だとか区役所だとか、いろいろな所と連携をとりながら、地域にどんな課題があるか、あるいはまたその相談をどういうふうにつなげていけるかといったようなことが一番重要ではないかと思います。これができれば、今言ったようないろいろな計画も順次進めていけるのではないかと思っています。 **（石塚委員）**今、黒津委員からお話があったように、私も全く同じように思っています。やはりケアプラザのほうから、自分たちから出ていくということを心がけなくてはいけないということは今、ネットワークづくりの中で思っております。 　今、ケアプラザの中でもいろいろな自主事業をやっているのですけれども、そちらのほうも地域の方たちと共同で行っていくというところで、自分たちだけで企画をするのではなく、地域の方たちとともに最初の企画・立案から行いまして、そういったことを広げていくことがネットワークづくりのもとになると思っております。 **（名和田副委員長）**地域福祉計画におつき合いをしてきて、私も幾つか感慨深く思っていることがあるのですが、その中の一つで、地域ケアプラザの認知度というのは非常に上がったと思うのです。もちろんそれは、地域ケアプラザ全体としての活動水準が高

	まったということがあると思うのですけれども、地域福祉計画の、特に区計画などの策定推進委員会で地域の人のご発言を聞いていると、明らかにこの数年で地域ケアプラザの存在感というのが高まっていると思うのです。そういうときに、さらにレベルアップを目指してこういった検討会が行われているというのは、私は非常にいいことだと思って期待しています。そういった観点から、あるいはこういう観点でもぜひ検討してほしいといったご意見等ありましたらお願いしたいと思います。 　では、これも後でお気づきになりましたら、メーリングリストで共有しながら進んでいきたいと思います。本当はもう少しいろいろ意見を引き出したほうがいいのかもしれませんが、そろそろ時間も迫っておりますので、次の報告（２）に移らせていただきたいと思います。 （２）横浜市地域福祉活動計画（市社会福祉協議会）について **（名和田副委員長）**今度は社協の活動計画についての報告です。事務局お願いいたします。 ・事務局が、横浜市地域福祉活動計画（市社会福祉協議会）について説明。【横浜市社会福祉協議会　第４次地域福祉活動計画リーディング事業進捗報告参照】 **（名和田副委員長）**いずれもかなり小さい地域単位に入っていただいて、地域を励ますような、あるいは区社協を励ますような取り組みを進められているのは大変結構なことで、非常に期待の持てる動きであろうと思います。皆様から何かご質問、ご意見はありますでしょうか。 **（黒津委員）**今まで各区のボランティアの拠点はどこにあるのですか。港南区の場合はたしか区社協の中にありましたが、これとはまた別なのですね。 **（事務局）**そうですね。地区ボランティアセンターは、より身近な地区の中に設置をしていただきたいということで。 **（黒津委員）**そうですか。拠点を新しくこのようにつくるのはいいですけれども、恐らく場所が確保できないでしょう。そのためにこういう、いわゆる空き家を利用するといったケースが多くなるのですか。 **（事務局）**資料の裏に新聞記事を掲載させていただいておりますけれども、空き家だけではなく、そのほかに町内会館を使わせてもらうとか。 **（黒津委員）**町内会館の一部を借りるわけですか。 **（事務局）**はい。あと店舗など、もし借りている所があって、引き続き運営ができるのであれば、そういった所にも設置していくことができると考えております。 **（黒津委員）**ただ、場所の問題から言って各区の中心地でないと、離れた所に置くと利用価値が少なくなる可能性があるのではないですか。 **（事務局）**地区の中につくりますので、連合エリアのどこか１カ所に置いて、そこの身近な地域の方々に利用していただくというイメージで進めていきたいと考えております。 **（黒津委員）**予定は、各区に１つずつつくるのですか。 **（事務局）**市域の中で４地区を限定して設置していきたいと思っています。まずモデル的に取り組みを始めていきたいと思っていますので、各区に１つつくるというわけではなくて、４年間でまずモデルとして４カ所、地区単位でボランティアセンターを設置・運営して、その取り組みを検証していきたいと思っています。

	（名和田副委員長）リーディング事業ですから、そういうことですね。 **（有賀委員）**今ご紹介がありました地区ボランティアセンターのモデル事業ですが、これは戸塚区の舞岡地区でやらせてもらっていますし、２つ目の見守り・たすけあい活動モデル事業は、やはり戸塚区の名瀬地区のたかの台という所でやっていらっしゃる事業をご紹介をしていただいたと思います。 　地区ボランティアセンターは、市内でも多分初めてのモデル事業と私ども戸塚区社協は思っております。それをやりましょうという熱意のある方と区社協と市社協とで協力し合いながらよい方向に進めていけたらということで、まだ９月に開所して間もないものですから順次話し合いのもと、地域に密着したよい地区ボランティアセンターになるよう努力していこうと考えています。 　２つ目にご紹介していただきました鷹の台のほうは、私の知るところ、最初は地域通貨にかかわっていたと思いますが、自治会でそれに取り組みつつ、助け合い活動にもかかわっていらっしゃるということで、先日、戸塚区社協でその発表機会があり、私もちょっと見せていただきました。これは確かに発表していただくべきモデル事業と言われる内容であると思い、内心うれしく思ったような次第です。 **（名和田副委員長）**両方戸塚区なのですね。地区ボランティアセンターで継続というのはなかなかないと思いますが、港南区はこういうものを区民活動センターのブランチ（サブ拠点）といって、継続的な運営費の一部を出したりしていますけれども、何かいろいろ工夫して永続するといいですね。 **（中野委員）**３番目の企業の地域貢献活動について、失敗談をお話しさせていただきます。 　区社協の情報誌の編集委員を務めさせていただいております。そこで、このところシリーズもので、こんな所があったというご紹介などをしていたのですが、たまたま私が今回、取材を仰せつかったのはパン屋さんでした。脱サラして10年修業して、２年前に開店したというパン屋さんで、本当においしくて、取材のつもりもなく、もうずっと開店当初から行っていたのです。それでこのたび、いい所だからと紹介して記事を書いたのです。ゲラを読んだら、これではタウン誌の記事と変わらないではないかという恥ずかしさが込み上げてまいりました。社協の情報誌に載せていながら、タウン誌と同じでは意味がないので、これに意味をつけようと思いまして、パン屋さんに行ってゲラを見せて、「これを掲載しますが、掲載料はいらないので、社協の会員になってください」と言ったのです。「会費をください」と。さらに、パン屋さんなので、障害者、障害児の職場体験の場所として提供してくださいと、２つを持ちかけに行ったところ、あえなく撃沈し、会員になるお金がないと言われました。これだけの記事を書いてタウン誌に載せたら、広告料を払うべきところを払わないで社協の会員になるなんて、いいはずだと思い込んで行ってしまったのですが、最初からそのねらいでそこへ行くべきだったという失敗でございました。 **（名和田副委員長）**既に終了時間が過ぎており、申しわけありません。もう少し意見交換をしたいところですけれども、先を急ぎまして、次はその他です。事務局のほうから何かありますでしょうか。 その他 **（事務局）**添付させていただいている資料で黄色い「地域福祉保健計画ニュース　第９号」

	は情報提供でございます。もう１点、青いチラシでございますが、「地域活動がさらに輝く３つの工夫」という講座を今回新しく企画しております。コミュニティビジネスはご存じの方も多いと思うのですが、そういう手法も入れながら、ちょっとした地域活動のステップアップになるためのヒントをご提供できればと考えております。11月30日と12月10日、２回に分けて講座を行います。講演は、港南台タウンカフェの株式会社Ｅタウンの斉藤さんです。２日目は泉区の下泉住宅自治会の佐久間さんです。斉藤さんと市民セクターよこはまの吉原さんでパネルディスカッションも予定しております。ぜひご参加いただければと思います。 閉 会
資　料 ・ 特記事項	資料１－①　第２期区地域福祉保健計画の策定推進状況（各区スケジュール） 資料１－②　平成22年度　横浜市地域福祉保健計画　関連全体スケジュール 資料２－①　推進の柱３「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための分科会について 資料２－②　第２期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会　分科会委員名簿 資料２－③　ヒアリング先一覧表 資料２－④　分科会　ヒント集のまとめ方（案） 資料２－⑤　ヒアリング項目ごとの共通点（案） 資料２－⑤－別添１　【参考】ヒアリング項目ごとの回答集（ヒアリング結果から） 資料２－⑤－別添２　【参考】ヒアリング項目ごとの回答集（既存の冊子等から） 資料３　推進の柱２「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」～「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」について（中間報告） 第２期区地域福祉保健計画の計画確定（予定）について 第２期瀬谷区地域福祉保健計画（中間案） みんなでつくる！地域福祉保健のプラン（金沢区） 横浜市・区　地域福祉保健計画ニュース 地域活動が更に輝く「３つの工夫」講座のお知らせ